

一つ一つに思いを込めて作品作り 美術部

美術部は六月十八日から二十五日にかけてプラザ萬象で行なわれてる第四十二回敦賀市総合美術展に作品を出展した。部員全員が作品と真剣に向き合って作成してきた。

部長の山口愛寿香さんは「今回の作品は全体的な色味を合わせることを意識した。後輩達は、絵が上手な子が多いので、



プラザ萬象にて展示されている部員らの作品

「今後に期待している」と語った。

また、顧問の長塚先生は「部員一人一人の描きたいイメージがまっすぐ表現されていて、好感がもてる作品がたくさん出来上がった。自分の納得がいく完成になっていたら嬉しい」と語った。

三年生は最後の作品、一年生は美術部に入っ



完成に向けての最後の仕上げ

写真部

ありのままに 作品に

初めての作品となるのでぜひ市美展に行つて、美術部員達の渾身の一作を観てほしい。

写真部は六月九日から十一日まで小浜市美術展に作品を展示していた。三年生は引退前最後の作品出展となったが、今後も作品を出展する予定だ。

部長の千葉美玲さんは写真を撮る際に「好きなものを撮る」「動物などを撮る時はありのままの姿を写すようにする」などを意識して毎日の部活動に取り組んできた。千葉さんは、次の世代に向け

て「自分の好きなように写真を撮ってほしい。大会でも頑張つてほしい」とメッセージを残した。顧問の堀川真知子先生は「皆仲良く和気あいあいとして良かった。三年生が残していった良いところを受け継いでいってほしい。これからのみんなの成長がとても楽しみだ」と今後の活躍を期待した。



「夜に浮かぶ」 千葉美玲作

かるた部

部長インタビュー 三年間を振り返る

かるた部は、六月五日に三年生のお別れ会をシスターで行つた。そこで、唯一の三年生であり部長の八木瑞季さんにインタビューをした。八木さんは中学生の頃に読んだ「ちはやふる」をきっかけにかるたに興味を持ち、高校に入ってからこの道を選んだ。

初心者ながら先輩に挑戦して初めて取った札は「かささぎの 渡せる橋に おく霜の白きを見れば 夜ぞ更けにける」だった。

この札は今も八木さんが好きな歌だ。八木さんが思うかるたのいいところは、何組もが一斉に戦う試合会場で、音一つたてず、動かさず、みんなが一体化する感じがするところだという。八木さんは「二年生とわいわい活動できて楽しかった。今後は二年生だけの活動になるが、新入部員を増やして仲良くやっていってほしい」とメッセージを送った。



引退する三年生を囲んでピース

後輩たちへエールを送る 千葉さん